



田島小だより

No. 1 1

子供たちの教育は「信頼関係」をもとに！

学校で不祥事または事故等があった際、
「担任を変えろ。」

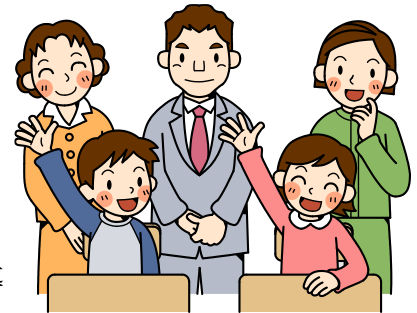
「学校の経営方針はどうなっている。」

などの意見を訴える保護者の発言を報道等で聞くことがあるかと思います。

これは「学校と保護者間の信頼関係が破綻している状況」と考えます。



本校では、主に「学校評価」の際に学校の経営・運営についてご意見をいただくことがあります。この意見は、学校（校長）が依頼したものです。その意見に対し、校長は貴重なご意見として確認し、学校だよりにおいて、対応等についてお伝えさせていただいています。



一方で、お子さんの教育活動における指導方法や指導体制、時には指導内容など、学校経営・運営に関わる事柄に対し、ご意見をいただくことがあります。校長としての学校経営の不十分さを痛感するとともに、保護者との信頼関係が崩れているのかと考えさせられます。

ここで学校経営・運営について保護者の方にもご理解いただきたいこともあります。一つは、どの職業でも同じですが、法律・ルールによって規定された中で行っていることです。

- ・教育内容は「学習指導要領」によって決まっていること
- ・教員は教員免許状を所有していないものは授業ができないこと
- ・年間の教育活動は、教育課程を編成し、事前に教育委員会へ届け、実施後報告すること
- ・学校の教員数は、学級の数によって決まっていること
- ・その学級は、児童数によって編制すること

などなど……。同じ公的な機関であっても、例えば保育所と学校ではルールが違い、保育所でできたことでも学校ではできないことがあります。

これらのルールは全国の子供たちの教育の機会、内容に差ができないように、公平公正に教育がなされるために定められており、これをもとに、田島小学校の教育活動は校長の責任の下進めています。

また、ルールの他に、友達との学び合いなどの教育的な効果も重視し、判断し実施しています。

指導にあたっては、個に応じた指導として、その子に応じた指導支援を学校の教育活動において最大限に行うようにしています。しかし、これは上記のルール等を踏まえ、その中で実施できる内容か否かを学校（校長）が判断し、取り組んでいくものです。保護者の方からの思いや願いを教育活動に確実に実施できるものではないことを改めて確認させていただきます。

保護者の方からの意見に関して、ここで校長として示したかったことは以下の2点です。

1 今後も、学校は保護者との信頼関係のもと、子供たちの教育活動にあたりたい。

- ・現在までの教育活動では、この信頼関係のもと各学年において個々の成長がみられる。
- ・学校では「できること」と「できないこと」があることを理解していただきたい。

2 悩みや困りごとがある場合は、具体的な対応策ではなくその悩み等を学校へ伝えていただきたい。

- ・具体的な方策の前に「困り感や悩み」を学校と共有し、その中で解決の方法を一緒に見つけていきたい。
- ・共有する機会として「ケース会議」（面談）を行う。その際、教育事務所や医療・療育などの関係機関の専門的な助言をいただき活用していく。

以上のことをご理解いただき、学校と保護者の信頼関係の上に子供たちの教育を進めていきたいと、田島小学校長として保護者の皆様にお伝えさせていただきます。

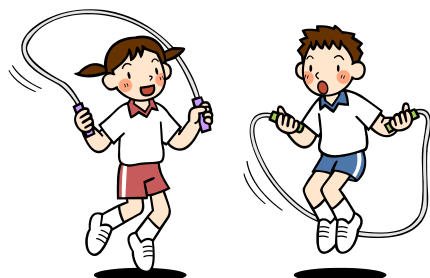
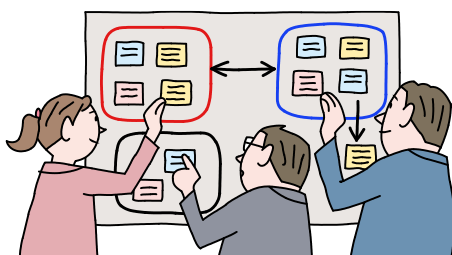
解決策を検討する会議（ケース会議）

学校では、右記のフローチャートをもとに、「生徒指導に関する困りごと」や「学習指導上の困りごと」について話し合い、解決するようにしています。

今回「保護者の悩み・困り感」、そして「ケース会議への保護者の参加（面談）」を明記しました。

解決に向けては、1回で終わる内容があれば、継続して取り組んでいく内容もあります。

ぜひ参考にしてください。



※「なわとび集会」以降、子供たちは「なわとび」に意欲的です。

